

病院統合再編く平成23年度までの診療科の移行計画素案を検討く

●お問い合わせ／市企画調整課企画調整係 ☎26-5704

来年4月1日から日本海総合病院（現県立日本海病院）、日本海総合病院酒田医療センター（現酒田市立酒田病院）の2つの病院を、新経営組織の「山形県・酒田市病院機構」が運営することになります。

平成23年4月までに医療機能の集約化を図るため、日本海総合病院の西側に120床程度の増床手術室・内視鏡室の増設、救命救急センターの整備が予定されています。この増築・改修工事が完成するまでの間（移行期）は、現在の両病院の施設を相互に有効利用しながら診療を続けることとなります。

検討中の計画では、各診療科をいち早く統合し現在の医師の過重労働を緩和するとともに、特に医師が一人の診療科では両病院の医師がその技術を合わせることでより高度な診療体制を構築することを目指しています。また、日本海総合病院に手術室や外来施設等が完成するまでに、一定の診療科を分割することで両病院の診療の混

雑を解消し、手術件数の平準化を図ることなどを目的としています。

移行期の主な診療科体制

移行期を含む医療機能のあり方は、これまで統合再編協議会の医療機能部会で検討を重ねてきました。平成20年度く22年度までの移行期や平成23年度の整備完了時の計画を含む両病院の診療体制の素案の検討と実施方策を、現在、診療科移行プロジェクト会議や法人設立準備会で続けています。

特に平成20年度く22年度までの移行期については、日本海総合病院酒田医療センター（現市立酒田病院）では、消化器科、整形外科、産婦人科など5く6科の診療を行い、他の診療科は日本海総合病院で実施してはどうかという素案を検討しています。

これまで診療している科の場所が変更する場合がありますが、患者さんにご不便をおかけすることも考えられるため、診療記録の相互連携、救急医療体制の調整、両病院間のシャトルバスの運行などを

検討・計画し、平成23年度に診療科の移行作業が円滑に進められるようにしたいと考えています。

統合再編Q&A 最近の出前講座から

問 もし、新病院が赤字になればすべて、山形県と酒田市が赤字分を負担することになりますか。

答 そうなることはありません。設立団体である山形県と酒田市は、中期目標で法人に指示する救急救命など政策医療や医療機器の整備などの一定額については運営費負担金という形で決められた額を交付し、赤字になったからといって、それを増額するものではありません。二つの病院が一緒になることで診療材料・薬品の共同購入や看護体制の充実など統合の長所を生かすことにより、経営的にもより良い病院になるものと考えています。

問 最近、女性専門外来を開設する病院がありますが、新病院では開設する考えはありますか。

答 現在、県立河北病院では、女性医師と女性スタッフによる女性専門外来「河北なでしこ外来」を開設して好評を得ていると聞いています。新病院の新しい医療機能の検討では具体化はしていませんが、将来の検討課題と考えています。

引き続き意見を募集くつしま

病院統合再編に関する皆さんの意見を募集しています。

市企画調整課企画調整係 26
5704 ☎26 6914
Eメール / itaku@city.sakata.lg.jp

出前講座をご利用ください

統合再編についての出前講座を開催しています。開催希望日の2週間前までに、直接またはファクシミリ、Eメールで左記に申し込んでください。

市まちづくり推進課地域づくり係
26 5725 ☎26 3688
Eメール / machi@city.sakata.lg.jp